

在ペナン日本国総領事・町田信也です。本年5月の総領事（館）活動報告をさせていただきたいと存じます（小官、勝手ながら5月26日から6月10日まで私用で一時帰国をしておりますところ、取り急ぎ5月25日までの活動報告になります）。これら活動の一部については別途総領事X、総領事館HP及びFBでも紹介しておりますので、併せ御笑覧ください。

在ペナン総領事館は、①日本人社会との関係構築／領事業務／日本企業支援、②日本の存在感広報のための広報文化・学術交流事業の実施・支援、③当地政治・経済・社会事情の把握を業務の3本柱とし、また、そのための業務体制の充実を旨としております。

ペナン外への「出張」等については、6日、矢間首席領事と共に、クダ州クリム・ハイテク・ファームを訪問しました。当館館員は、領事関係を中心にして管轄地域内に必要な出張をしております。

私共としては、北部6州の関係者・関係機関を幅広く訪問して人脈を形成し、当地事情をより深く詳細に理解していきたいと考えております。

政治・行政・経済・外交面では、5日、当地領事団幹部と昼食を交えて懇談・意見交換し、併せ、新任の矢間首席領事の紹介を行ないました。有力経済人が多い当地名誉領事団との関係は大変重要であり、今後も緊密な意見交換をしていきたいと思います。同日、チョウ・コン・ヨウ・ペナン州首席大臣と夕食を交え、当地日本人社会関係者と共に懇



談・意見交換いたしました。同首席大臣とは多数の会合において同席する機会があり、また、昨年9月、大阪・関西万博「ペナン・ウィーク」の際に同首席大臣が訪日された際には同行するなどして関係を深めてまいりましたが、公邸にお招きして、直接当地日本人会幹部と交流していただいたのは初めてでした。同首席大臣の功績等についてお話を伺い、

また、日本企業の要望などを耳にいただいたことは成果があったと思っております。

12日、公邸において、当地USM社会科学部教授等と懇談し、今後の政治の行方等について意見交換しました。14日、当地ホテルで開催された第15回アジア化繊産業連盟会

議（ACFIF：Asian Chemical Fiber Industries Federation）の開会式及び夕食会に参加しました。

ACFIFは、アジア地域の化学繊維産業の発展と国際協力推進を目的として、1996年に榊原定征・東レ会長によって創設され、加盟国は、日本、中国、韓国、インド、インドネシア、タイ、台湾、

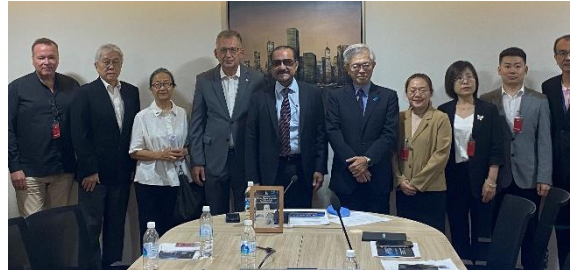




マレーシア、パキスタンなどです。開会式では、スティーブン・シム起業・協同組合開発大臣等が挨拶し、夕食会ではチョウ・コン・ヨウ・ペナン州首席大臣が挨拶したことはこの会議の重要性を明らかに示すものでした。日本の主導でアジアの基幹産業の産業協力がなされてきたことは素晴らしいです。19日、ペナン州政府庁舎で開催された

「A I Horizon International Engagement Dialogue 2026」(ジャグデーブ・シン・ペナン州第二副首席大臣主催)に出席しました。

ペナン州はA I 産業への関与を強めており、この会議は、10月に開催される予定の「A I Horizon 2026」(昨年も開催)に対する各国からの参加(ブースでのA I企業の参加及び議論への専門家の参加)を呼びかけることがこの日の会議の目的でした。他に、何カ国かの名誉領事が参加



しており、活発な質疑応答がなされていました。A Iは現在の日本政府が戦略的な重要産業として掲げる分野であり、ペナンとの間でどのような連携ができるかを議論するのは有意義であるところ、この会議の事務局には日本のA I 専門家の招聘などを示唆することにしていきます。5月21日、Penang Premium Business Enterprise Association(P P B E A)に招かれ、最近の日本政治及び経済について説明をいたしました。P P B E Aは当地 Hunza



Property の創業者である Dato' Seri Khor Teng Tong が設立した多くの企業を網羅するペナン優良企業の団体であり、ペナン州政府にも強い繋がりを有しています。私からは、日本の戦後政治から説き起こし、現在の高市政権の積極的な外交・防衛・経

済(安全保障)政策の展開等によって、我が国が「失われた30年」から遂に脱しつつあることを論じました。日本とペナン/マレーシアの更なる連携強化の一助となれば幸いです。

今後とも、当地行政機関等との関係を深め、また、様々な人や組織を繋げることによって、当地の日本人・日本企業の皆様等の活動へのヒントをもたらすことができたら良いと思っています。

日本人社会・日本企業との関係では、6日、クダ州のクリム・ハイテク・パーク内で操業するメニコン・マレーシア社を訪問し、同社の操業状況についてお話を伺うと共に、クリム・ハイテク・パークのインフラ等の状況についてお話を伺いました。以前、クリム・ハイテク・パークの運営会社に対して現地日本企業の懸念・要望を伝達しましたが、今後も同様の取り組みを進めて行く所存です。



領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは総領事館業務の「一丁目一番地」です。当地日本人コミュニティの皆様や来訪者には、警備担当官から安全講習を随時実施しています。今後とも、皆様への治安情報の積極的な提供に努めていきたいと存じます。また、日本人コミュニティと当地コミュニティとの橋渡し、その中での日本企業支援なども積極的に、かつ、日本企業のご要望に添う形で実施して参りたいと存じます。

文化交流・報道・学術交流関係では、4日、ペナン州政府庁舎において、2026年ペナ



ン盆踊り
(7月18日)
における「ミス盆踊り」(二



年振り)についての記者会見に参加しました。この



会見には、ウォン・ホン・ワイ・ペナン州政府観光・創造経済担当EXCO、馬日協会 (MJS)、ペナン日本人会はもとより、スポンサーとしてキャノン関係者も参加し、盛大に行われました。また、その後、同所において、盆踊りについての第二回委員会に参加しました。ペナン盆踊りは当地日本コミュニティにとっても、日本とペナンの人的・文化交流促進のためにも重要な行事であり、従来通り積極的に関与していく所存です。7日、ペナン水道

公社幹部であり、また、「スタディ・ペナン」(教育観光促進団体)及び「P-MED」(医療観光促進団体)を主宰するメリー・アン・ハリス氏、「バガン・スペシャリスト・センター」関係者、プリンス・オブ・ウェールズ島インターナショナルスクール (POW I I S : Prince of Wales Island International School)関係者と懇談し、当地水問題、医療観光の現状、国際教育の現状について懇談・意見交換し、今後の連携強化で一致しました。9日、ジョセフ・ウン・ペナン州議会議員が主催するペナン州ジョージタウンのアヤル・イタム地区での「Penang Heritage Walk」行事に参加し、同地区にあるペナン水道公社の浄

水場などを訪問しました。この浄水場は、独立前に英国当局が建設したものであり、ペナン開発の歴史を垣間見ることができました。「Penang Heritage Walk」のようなペナンをより



良く知る行事などには今後も積極的に参加していくことにしています。同日、PKTロジスティクス社の保有するバト・カワンの「SHIPキャンパス」で開催されたJAGAM（マレーシア元



留日学生協会) 北部支部総会の前に開催された昼食会に出席し、また、日本政府／総領事館との今後の連携関係について述べました。日本とペナン／マレーシアとの関係が更に発展していくためには、既に両国間の架け橋になっているJAGAMとの友好的な関係が極めて重要だと認識しています。同日、ペナン州タンジョン・トコンの「たま福カフェ」において、日本人・マレーシア人双方の友人を招いて、本格的な茶事の夕食を差上げました。

「たま福」の川下有紀オーナーはペナンのみならずダ州などでも茶道の普及に力を入れておられるところ、当館としては今後とも応援していきたいと思



す。11日、公邸において、ダティン・スリ・アイリン・ヤップ／ペナン・フィルハーモニー・オーケストラ会長、ウン・チョン・イエン同指揮者、山崎恵美ピンク・ハイビスカス・クラブ代表との間で、日本文化紹介イベントにおける連携や日馬文化交流等について意見交換しました。ダティン・ヤップは、当地資産家の一員であり、社会貢献の一環として、ペナン・フィルハーモニー・オーケストラの会長を務めています。ウンさんは、先日行われたコンサートにおいてジブリ音楽を演奏するなど、日本文化への造詣が深いところ、今後、当地日本関係団体との間で連



携できるかもしれません。5月17日、シェルリーナ・アブドウル・ラシッド連邦下院議員、山崎恵美ピンク・ハイビスカス・クラブ代表とともに、同クラブ主



催によってガーニー・プラザで開催された「アメージング・ジャパン2026（子供の日）」に出席

しました。同イベントでは、紙芝居コンテスト、抹茶試飲、着物試着などで大勢の参加者で賑わったほか、着物クイーンとミスペナンよさこい2026決勝では、美しい日本の着物に包まれた出場者全員に大きな拍手が送られました。「アメージング・ジャパン」はよさこいパレードと同様に、ペナンにおいて長年にわたって開催されている参加型の日本文化紹介行事であり、毎年充実度が増しています。このような取り組みを総領事館としてもできる限り支援してまいります。

.....。

総領事館としては今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア交流促進のために心を尽くす所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！今後も、日



本とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよ

う、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。



※以上の見解は、私個人のものです。